

第161関係様式

調 査 研 修 報 告 書

令和6年2月26日

大郷町議会議長
石川 良彦 殿

会派の名称 真成会

代表者（議員） 金須 新一

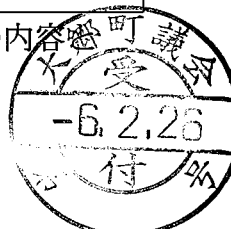


下記のとおり政務活動調査研修のため旅行したので、大郷町議会運営に関する基準第161の規定により報告いたします。

記

- | | |
|--------|--|
| 1. 期 間 | 令和6年2月7日～ 2月8日 (2日間) |
| 2. 調査地 | 群馬県利根郡川場村大字谷地 3200 川場村歴史民俗資料館
群馬県利根郡川場村大字萩窪 385 道の駅川場田園プラザ
栃木県下都賀郡壬生町本丸 1-8-32 壬生町歴史民俗資料館
栃木県下都賀郡壬生町国谷 1870-2 道の駅みぶ |
| 3. 所 感 | 所感については、別紙のとおり。 |

※調査内容、出席者名、旅程表については、計画書と相違がある場合は、その内容理由を明記したものを添付すること。



所 感

歴史民俗資料館について

川場村歴史民俗資料館

(1) 展示の基本テーマについて

村内より発掘した縄文・弥生式土器、古代ナウマン象の臼歯、中世の寄進状、仏像、近世のキリシタン関係・真田関係・農民騒動関係資料、修験者遺品、美術品、教育・文人関係資料、歌人江口きち資料、昔の農具・民具類、川場村の鳥獣のはく製を展示している。

年1～2回特別展・企画展を実施。江口きち関係の図書、郷土かるたを常時販売している。

(2) 施設的环境や運営について

「川場村歴史民俗資料館運営審議会」によって、資料館事業の規格及びその実施、寄贈の受領等について、調査・審議を行っている。年数回の会議の開催、村内外における研修会等により、知見を深めている。

休館日は月曜日・火曜日・祝日・12月29日～1月3日

入場料 高校生以上200円（団体10名以上160円）

中学生以下100円（団体10名以上80円）

(3) 施設の構造と規模について

昭和62年3月31日開館。明治43年建築の木造校舎を移築。建物は世界遺産富岡製糸場と同様のトラス工法で、文化庁より有形登録文化財に指定されている。

「敷地面積 12,076 m²・建築面積 1,026.33 m²・延べ面積 951.87 m²」

(4) 来客者数の実績について

令和4年度入館数は、2,683人

壬生町歴史民俗資料館

(1) 展示の基本テーマについて

「壬生のあゆみと文化」をテーマとし、展示は古墳時代・江戸時代・近代文芸と大きく3つの分野に分けている。

(2) 施設的环境や運営について

壬生城後に作られた壬生城址公園内に中央公民館・図書館と一本で整備された。

町教育委員会直営（常設展入館無料）、通常の人員配置は正規職員（学芸員）2名、会計年度職員学芸1名、文化財1名で対応している。

(3) 施設の構造と規模について

昭和60年建築、鉄筋コンクリート造2階。（延べ面積 967.3 m²）

(4) 来客者数の実績について

令和4年度入館数 4,019 人。(今年度見込み約 8,000 人)

道の駅について

道の駅川場田園プラザ

(1) 施設の運営形態について

株式会社田園プラザ川場として1993年4月1日設立。資本金9千万円(川場村出資割合60%他9団体)従業員140名(社員40名、パート・アルバイト100名)

2022年「じゃらん」道の駅グランプリ第1位。

(2) 集客や売り上げを向上させるために取り組んでいる事項について

お客様目線、農家生産者目線、納入業者目線の意識化。(田園プラザが買ってやっているなどと思てはいけない。農産物を持って来てくれる農家、商品を納めてくれる業者さんがいて初めて田園プラザとして機能する意識)

(3) 道の駅の役割について

- ①若者を中心とした就業機会を増やし、定住、UIターンを推進する。
- ②地場産品の開発、PRを進め、その流通を促進する。
- ③村民相互、並びに村民と村来社の交流・交歓や情報交換の場とする。
- ④シャトルバスなどの起終点など、村内の交通ターミナルとして機能する。

道の駅みぶ

(1) 施設の運営形態について

「道の駅みぶ」は公園としては、とちぎわんぱく公園や壬生町総合公園、施設としては、とちぎわんぱく公園内のこどもの城、ぱなぱなのまち、不思議の船があり、壬生町総合公園内には、壬生町おもちゃ博物館、みぶハイウェイパークみらい館などで構成される約52.4haの日本一大きな道の駅である。

わんぱく公園⇒栃木県の公園⇒指定管理

壬生町総合公園⇒壬生町の公園⇒町直営

壬生町おもちゃ博物館⇒壬生町の施設⇒指定管理

みぶハイウェイパークみらい館⇒壬生町の施設⇒町直営

(2) 道の駅の役割について

単なる「道の駅」から多機能「道の駅」へ進化させる。災害時に対応した防災機能を充実させたり、道路情報や医療情報等の情報提供によりドライバーへのサービスの向上を図ることが重要と考える。

(3) 今後の展望や課題について

- ①物販施設や農産物直売所、飲食施設等の規模拡大及び充実。
- ②施設利用者に寄り添った商品、サービス提供の促進。
- ③駐車場やトイレなどの「思いやり」利便性の向上。
- ④施設利用者にインパクトを与える「壬生の魅力」の発信力の向上。

まとめ

歴史民俗資料館について

当町においては、現状単独事業で歴史民俗資料館を建設することは、非常に難しい状況にある。当分の間中央公民館等のスペースを有効活用し、一時的に保管している場所から物品を移動し、展示することが望ましいと考える。また役場庁舎が令和11年度に建築後50年を迎え、移転建設する計画があることからその時期に併せて、庁舎事業と並行して実施すべきと考える。

道の駅について

収益を上げている道の駅は、相対的にみると「道の駅単独」ではなく、何かしらプラスアルファの施設等を兼ね備えている事実が確認される。「おおさと道の駅」についても、今後敷地内にプラスアルファの施設を備えることが重要と考える。(例えば散歩道を併設した公園の設置、GOGO ランドを移設する等) また今回視察した道の駅については、全国約1,200ある道の駅のうち、39カ所しかない「防災拠点型道の駅」に指定されている。宮城県内には、まだ「防災拠点型道の駅」が存在していないことから、県内指定第1号道の駅として登録できる取り組みを推進することも重要と考える。

追記

調査研修計画書に添付した旅程表内に、令和6年2月7日宿泊場所を群馬県沼田市内と記載していたが、宿泊予約が出来なかったため、栃木県鹿沼市内に宿泊場所を変更した。